

日本史B

【解答】

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
b	b	d	a	d
問 6	問 7	問 8	問 9	問 10
a	c	d	d	a
問 11	問 12	問 13	問 14	問 15
c	c	b	c	a
問 16	問 17	問 18	問 19	問 20
a	d	c	b	b
問 21	宝治合戦で三浦泰村とその一族を滅ぼして北条氏の地位を固めるとともに、評定衆の下に新たに引付をおいて引付衆を任命し、所領訴訟に対応させた。また、藤原将軍にかわって皇族将軍として後嵯峨上皇の皇子の宗尊親王を将軍に向かい入れた。			
問 22	2 個師団増設問題で第 2 次西園寺内閣は総辞職し、内大臣の桂太郎が第 3 次桂内閣を組閣した。これに対して、尾崎行雄や犬養毅が「閥族打破・憲政擁護」をスローガンに倒閣運動を展開し、民衆運動に発展して民衆が議会を包囲したため桂内閣は総辞職に追い込まれた。			

【学習アドバイス】

本学の入試は、5科目の選択科目の中から2科目を選択して受験する形式を採り、試験時間は2科目合わせて100分となっている。各科目にかける時間配分は、出題の分量にもよるが、1科目につき50分前後の時間を解答時間として考えるべきであろう。

今年度の問題は、「8世紀の政治と文化」、「18世紀の政治と文化」、「自由民権運動と初期議会」、「戦後の民主化政策と経済・文化」が出題されており、古代・中世・近世・近代とバランスのとれた出題内容となっている。分野では政治史を中心に、外交史・文化史・テーマ史・社会経済史で構成されている。

入試の内容は、2023年度より、大問3題から大問5題へ増加、設問形式が空欄補充問題（語句・人名の組合せ形式）と論述問題のほかに、文章による正誤判定問題へと大きく変化したが、今年度も2023年度と全く同じ出題形式が踏襲されている。また総解答数も2023年度に「12個・論述2題」から「20個・論述2題」と大幅に増加したが、今年度も同じであった。

本学を目指す受験生は、全時代の学習が必要不可欠となる。政治史中心の出題になっているが、政治史に偏ることなく、政治史と関連させて外交史・文化史・テーマ史・社会経済史の学習が大切になってくる。

出題形式の定番である空欄補充問題（語句・人名の組合せ形式）は、高校の教科書・用語集の範囲内の標準的なものとなっているので、一問一答集などを利用してスムーズに語句・人名等が選べるようにしておこう。

多くの割合を占める正誤判定問題に対しては、選択肢の各文をしっかりと読んで、誤った語句（人物・事項など）が入っていないか、各時代や政策に関するキーワードが入っているかいないかを正確に判断できるかが大切である。普段の学習から「〇〇に関わった人物は誰か」「〇〇の結果や影響はどうだったか」などを意識して学習を進めていこう。そして最後に正誤判定問題・旧センター試験対策用の問題集に積極的にトライして、「正しい箇所はどれか」「どこが誤っているか」に注意しながら進めていくとよい。

2023年度に出題された年代配列の出題が今年度には出題されなかった。過去問や問題集を利用する際に「本学は年代配列の出題はない」ということで手をつけない受験生がいるかもしれない。しかしこの形式の出題は、「知っている年代（年号）を基準に前後を特定する」「何世紀の前半・中頃・後半か」「何時代か」「為政者が誰の時か」などを特定する作業が必要となり、この作業は正誤判定問題にも関連・直結しているので、問題集で遭遇した際には積極的に取り組んでほしい。

本学の入試では、120字程度の論述問題が2問出題されおり、論述問題の成否が合否を大きく左右する。今年度は「北条時頼による執権政治の強化」と「第一次護憲運動」が出題されている（2023年度は「異国船打払令の内容と結末」、「金解禁の内容と結末」）。主に「事項に関する内容・結果」についての論述であるため、吸収した知識を「誰が」「いつ」「どこで」「何をしたか（なぜそうしたか）」「どのような結果になったか」「どのような影響を与えたか」という形にならぬとよい。受験の基本となる教科書は、そのような流れで記述されているので、太字以外にも注意して、熟読することが大切だ。そしてその内容を自分なりにまとめてみるとよいだろう。論述問題は一朝一夕での対応は難しいので、早めの着手が望ましい。論述問題のトレーニングとして、高校の先生に基本的なレベルの用語の課題を出してもらい、添削指導をしてもらうのが最も効果的な論述対策である。最初は少なめの字数から始めて、徐々に120字まで字数を増やしていくといいたいだろう。それを繰り返すことにより、論述問題に対する不安が大きな自信へとかわり、合格へ大きく近づくことになる。

以上のような対策を着実に積んでいけば、必ずや良い結果が出るであろう。